

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成20年度 第5回 川西市社会教育委員の会		
事務局 (担当課)	教育振興部 社会教育室 (内線 3421)		
開催日時	平成20年10月22日(水) 10時～12時		
開催場所	川西市役所 2階 202会議室		
出席者	委員	生田議長、小柳副議長、後藤委員、佐道委員、眞田委員 関西委員、武村委員、渡邊委員 計8名	
	事務局	牛尾教育振興部長、後藤こども部長、幸田総務調整室長 松岡教育支援室長、仲学校教育室長、山川社会教育室長 森岡中央図書館長、渡瀬中央公民館長、寺本参事兼生涯 学習センター所長、藪野子育て室長、横田中央公民館主 幹、吉田青少年支援課長 計12名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
会議次第	1. 報告 (1) その他  2. 議題 (1) 年間テーマ 「地域教育の向上をめざしたしくみづくり」  3. その他		
会議結果	別紙のとおり		

議長	開会する。
事務局	<p>1. 報告</p> <p>(1) 平成20年度体育の日記念式典 平成20年10月13日(月祝) 10時～ 川西市体育協会功労者表彰者：佐道委員が受賞</p> <p>(2) 第61回優良公民館表彰を中央公民館が受賞した 対象公民館：56公民館 高齢者大学りんどう学園の長期の事業の功績等が認められた。</p>
議長	<p>議題に入る。</p> <p>「地域教育の向上を目指したしくみづくり」について。前回の議事録を読んでいただいたことと思う。前半は学校教育関係の問題について話し合ってきた。後半については、社会教育施設、公民館等との関係について話し合いたい。</p> <p>これまでの議事録を通読してわかるのは、さまざまな問題が子どもたちを取り巻いており、まとめていくのはとてもむづかしい。前回は、事務局からの教育支援などの取り組みを紹介してもらった。そのなかで、インターネットを中心に論じた。社会問題にまで発展している学校とインターネットとの関わりについて、学校からの報告をもとに現状を把握し、地域諸団体として、あるいは学校として、どのように対応しなければならないかを議論して終了した。</p> <p>前々回には、青少年支援課からも、「放課後子ども教室」について、国の動きなどを説明いただき、議論したところである。今日は学校教育の部分のまとめた論議を最初にし、次の公民館等の論議に入りたい。</p>

副議長	<p>さまざまな市民の活動があるが、学校はどの部分で協力があればよいのか。協力を求められている部分と、協力していただける方の思いとが、ずれているといけない。</p> <p>他には、食育の問題もそうである。これは家庭教育に大きく関わっているが、これは、地域の中でどこまで支援できるかは分からない。食育を家庭教育に絡めてもっと考えていかなければならない。</p>
議長	<p>教育現場で何が要求されているか、子ども教室の取り組みの経緯の報告などもあわせて、教育の立場から考えたとき安全や責任の問題があり論議もした。</p>
D委員	<p>学校はいろんな意味で「開かれた学校」であり、もはや地域の協力なしではすまない状態で協力いただいている。</p> <p>子ども教室に、運営および指導の協力をいただいている。例として、3年生・4年生の社会科ならば「地域の社会」が対象となり、学校をとりまく地域の歴史などを語っていただけるような方の協力もある。他に交通安全の安全協力員、クラブ活動の指導もある。</p> <p>学校安全協力員について、人数が減退気味である。</p> <p>地域の先生は、総合的な学習の中で入れてきたが、今は算数や理科を元に戻そうとしている。総合的な学習が落ちていくなかで、「地域の先生」も縮小されていく可能性がある。今、地域と学校とのつながりが薄れないようにしていかなければならないと思う。</p> <p>他に、食育について、教科と給食とからめて食育を進めて行くか、どの学校もその計画ができてきたと思う。ただ実践はまだまだである。</p> <p>給食では、子どものアレルギー問題は深刻である。アレルギー</p>

	<p>ギーの種類も多彩で、小麦粉アレルギー、たまごアレルギーなど、食物のなかに多く使用されるものの対策が難しい。教育委員会からは、アレルギーを持つ子どもに対する対応の指導を受けている。今は校長が責任をもって対応している。本校では、たまごアレルギーの小六の子がいる。調理途中の段階で除いたら食べられるというような保護者からの助言もある。メニューにその子の食べられるものを増やしてほしいといった意見なども検討している。出来た給食は校長室に運んでもらい、校長が確認して子どもに取りに来させている。しかし、何でもかんでも受け入れることはできない。市としての一定の指針は必要と思っている。</p>
議長	<p>校長の立場の重い責任も理解する。責任問題は常についてくる。</p>
F 委員	<p>副議長の意見にもあったが、学校はどういった支援を求めているのだろうか。地域も要望を受け入れるための体制ができているのか。学校の敷地内については、学校経営のなかで解決していただきたいという思いがある。</p> <p>子どもが終業時間を終えて校門を出れば、それからは地域の出番である。校門から家にたどりつくまでの間、親は子どもの安全に関して責任があるということを感じているのかといったこともあろう。その辺を学校と地域がお互いに理解できているかが問題であろう。いろいろな問題に対応できるよう責任所在を明らかにし、抜け目のない対策を作り上げることが必要である。</p>
C 委員	<p>アレルギー体質の子どもは増えつつある。調理師さんの人数が限られているのでひとり一人への対策は難しいと思う。学校でも食育について熱心に取り組んでいることは分かって</p>

<p>議長</p>	<p>いる。例えば、毎月1回でいいから、家庭のお弁当の日を決めるというのはどうか。食育ということも考え、月に1回ならば負担にならないのではないか。アレルギーの子にとってもいっしょに弁当が食べられるということもよいのではないかと思う。</p> <p>学校園の教育の活動がどういうものか、そしてその実情が発信されているようでされていない。今はアレルギーについて、「少人数に対する対応」ということが、「平均的」にではなく、少人数の子について支援が出来ているかという問題提起されている。アレルギーや不登校やいじめについても同様にどう対応しているのかということが求められていると思う。</p> <p>学校現場があまりに多くの課題を受け止めすぎて、問題が複雑になっているように思える。指導の方針から率直に意見をいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>学校現場の実態と学校の要求とは、という話が出ているが4月の段階で法的な大きな変化があった。中央教育審議会のなかで「社会総がかり」というフレーズが出されている。それぞれの立場から、意見はよく出され、学力など取りざたされている。幼稚園からもいろんな意味での幅広い教育への要求が保護者から出されている。学力をどうやって子どもにつけさせるのか、日々の学習で身につけさせる、心の豊かさを育てる、という課題が多く、地域の協力が不可欠である。</p> <p>今の子どもたちに必要なことのひとつとして、「健やかな体づくり」というものもある。学校にとどまるのではなく、地域に出て公民館事業に参加するなども子どもにとって必要かと思われる。</p> <p>子どもの学力向上についても、地域の方が、授業に入って</p>

<p>議長</p>	<p>いっている例がある。団塊世代の方々が、子どもたちを支える取り組みにその経験を活かすことは良いことだろう。海外経験の長い人ならば、語学など、経験に基づく具体的な指導をいただけると思う。</p> <p>秋田県の子どもの学力はとても高いと新聞記事でも取り上げられていたが、地域の方の教育力は大切である。無理なく協力を続けていってもらえればと思う。</p> <p>学力のとらえ方は様々であるが、学力テストの件に関しては新聞をにぎわしている。学力とは何か、改めて学校教育に視線を集めている状況である。社会教育と融合しながら、国民「総がかり」で支援に取り組まなければいけないと思われる。</p>
<p>事務局</p>	<p>「生きる力」ということが言われている。「生きる力」とは、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」ととらえている。「全国学力学習状況調査」があったが、家庭での役割を忘れてはならない。学習習慣では読書時間が長い生徒、学校に行く前に持ち物を確認する生徒、学校のことを家の人とよく話しをする生徒の方が正答率が高いという結果が出てきている。学校と家庭が連携を深めていなければならぬ。</p> <p>大人が変われば、子どもも変わるというスローガンがあるように、大人としても心がけなければならない。</p> <p>「地域のおじさん、おばさん運動」がある。地域のおじさんおばさんが、子どもの悪い行動に対して声をかけて注意するというもの。今こういったことが必要であると言われている。挨拶の問題、家庭の団欒、約束を守ること、そういったことを子どもが身につけることに、学校、地域、家庭が見守っていくことが重要ではないかと思われる。</p> <p>学校・家庭・地域のかかわりとしては、学校図書館に地域</p>

<p>議長</p>	<p>の人たちが図書館のボランティアとして、読み聞かせや貸し出しの手伝いをしていただいております、子どもも静かに聴き、ゆったりとした気持ちで、次の授業に臨むというサイクルが出来ている。学校の参観日、懇談会への参加が以前より少なくなっている印象がある。これについては、できるかぎり学校もオープンスクールをもっと行うなど、地域や家庭の方々にも出席していただければと思う。</p> <p>6月に「放課後子ども教室」について話し合ったが、それ以後の状況を報告いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>「放課後子ども教室」は、平成16年から「地域子ども教室」と言って、国の委託事業として始められたが、平成18年に2校から5校に増えた。平成19年度委託事業が補助事業としてシステムが変わった。平成20年度に3校が加わって、明峰、陽明、久代、川西北、清和台南、桜が丘、緑台、清和台小学校である。年間最低40日間を開くという決めがある。この8校区以外でも20日ぐらいはできるが、40日という枠をクリアすることが困難だという声もある。こちらから強制することもできないが、小学校をまわりながら理解をいただくよう説得をしている。もっと事業を拡充していきたいと考えている。</p>
<p>議長</p>	<p>これまでの事務局の説明について、なにか意見は。</p>
<p>B委員</p>	<p>40日が困難である理由は。</p>
<p>事務局</p>	<p>家庭の事情などで、毎週の従事はできないなどの理由である。また、人材的なことも理由である。</p>

B 委員	<p>たぶん地域には支援できるボランティアを希望している人は、たくさんいると思われる。地域にどんな力があるのか知る必要があると思われる。</p> <p>50歳になると、「定期健診のお知らせハガキ」がくるように、市役所から「地域に力を活かしてみませんか」という呼びかけをするのも有効ではないか。おそらく、啓発することで参加が増えると思われる。こつこつと熱心にしてくれる人材も見つかるのではないか。学校から離れている年代の人たちに声を届ける仕組みを作れたら良いと思う。</p> <p>地域のごみの講習会があった。こういう場を利用する等、自治会でも学童をとりまくインターネットの問題をよびかけ話し合う場を持てるように、働きかけてみてはどうかと思った。</p>
議長	<p>まったくそのとおりである。</p> <p>放課後子ども教室にしても、学校で落差がありすぎるのではないか。コーディネーター役、リーダーシップの問題で盛んであるところとそうでないところがある。学校の情報は良いことも悪いことも発信していかなければ、市民はわからない。そうした部分、コーディネーター役について、行政は情報を持たれているのではないか。</p>
事務局	<p>学校支援地域本部を社会教育室でしており、県のほうも動きを進めている。ボランティアについて、私でもできるか、といった問いあわせがあったりする。国の方でもリストを作成するという方向である。県の方でも青少年関係でも「青少年ボランティア」というリストがあった。こうした窓口を各学校の教頭が受け持っていると思う。</p>
D 委員	<p>ある小学校の例で、いきいき応援団の講師として一覧表に</p>

	<p>したことがあったが、うまく活用できなかった。組織を活用できなかった。しかし、そのようにして、各校で呼びかければと思う</p> <p>学校の体質としては、校外の人間を呼ぶということには抵抗感があり、閉鎖的な印象もあろう。人材を呼びかければ、集まると思う。</p>
A 委員	<p>家庭、地域が、子どもの問題を学校に持って行き過ぎている。先ほどの話にもあった「食育」に関しても、基本は家庭ではないか。</p>
議長	<p>川西市も学校支援地域本部を立ち上げている。私は委員長している。</p>
事務局	<p>学校、地域、家庭、住み分けが難しい。昨年「放課後子ども教室」が教育委員会から子ども部に移った。この教室の開設を学校訪問して校長にお願いしなければならない状況である。</p> <p>土日に足を運ぶ。プライベートな時間をつぶすことが肥大化していく。学校のスペースで土日に行われている。やはり学校長の負担は大きい。「放課後こどもプラン」も放課後と夏休みと土日である。</p> <p>学校支援地域本部は、授業の支援をするのが本来の目的である。休み時間、授業中の支援である。清掃活動、すべて学校生活の中で行なうのである。事業の住み分けが兵庫県ではしてある。公民館も親子講座をたくさん持っている。</p> <p>先生たちも、精一杯である。これ以上なにを求められるのか。</p>
B 委員	<p>なぜ40日の「放課後こども教室」の実施が難しい状況な</p>

事務局	<p>のか、という質問をしたが、地域の人が動いていないということのように思える。</p> <p>実際動いているのは定年退職された方がほとんどである。</p>
B委員	<p>まだまだ健康な方がいる。そういう方たちの協力が必要だとおもう。そういう人たちを集める方法を考えなければならない。はがきなどの案内ができればよいと思う。</p>
議長	<p>今年、学校支援地域本部という組織で、コーディネーターさんが2名いる。国が委託している。公民館長さんはじめ、関わっていただいている。進捗状況を説明していただけないか。</p>
事務局	<p>6月から実働してよいと県から言われている。7月2日から委託契約を県と結んでいる。10月になってようやく契約文書がとどいた。文科省の動きが早かったが県の動きが遅かった。コーディネーターには各学校を回り、校長などの要望、現在の状況、人材バンクのあり方、ボランティアについての意見、情報、などを聞いている。たとえば中国語の出来る方の派遣希望に対して、そういう人の派遣をしていくようにしていきたい。人材バンクについては、レフネックのOBの方、いきいき応援団の方や、入っていただけそうな方々と話し合いをもって、人材バンクの作成を進めていきたい。</p> <p>来年は、レフネック、公民館グループさんに向けて登録案内用の用紙をつくって配布をする予定であり、市民向けには、公民館に登録用紙を置いてもらえるようにしたいと考えている。そして学校から要望があった場合、用紙に記入されて登録のあった人を紹介していきたい。</p> <p>11月の末ぐらいに、経緯を説明する実行委員会を開催し</p>

	たいと考えている。
議長	ご報告ありがとうございます。
A委員	自治会の回覧板を使うというのはどうか。
事務局	公民館、自治会との調整が必要。回覧だと用紙の数が多く必要になる。現在、社会教育室にコーディネーター2名がおり、次回のこの会に出席してもらってはどうか。
議長	社会教育室長からの提案として、次回、コーディネーターさんに会議に参加していただいてもよいか。
全員	異議なし。
議長	次回コーディネーター2名の出席調整をお願いします。
E委員	<p>これまでの話の中で、国・県から落とし込まれる事業は3年間に限られているという問題がある。継続にしても、事業自体に対する「思い」が必要である。例えば学校というテーマであったら、校長先生の「思い」が、人が変わることによって途絶えてしまうということがある。</p> <p>校長先生の要望が大切で、そういった要望がないならば、地域支援は成り立たない。</p>
D委員	<p>アレルギーの子どもに対しては、少人数であっても対処していくべきだ。市教委もそうしていける方法を模索していただきたい。</p> <p>E委員の意見の中にあつたが、私自身、けやき坂コミュニティーに参加させていただいた経験もある。コミュニティー</p>

	<p>運営の難しさは、会員をどうまとめていくかであり、また、どう継続させていくかである。お金を出しても損ばかりだといってやめていかれる方もいた。自治会も同じである。</p> <p>「学校でこういうニーズがある、だからどうしたい。」だから「皆さんを募りたい」というようにしていかなければならない。</p> <p>これらがすべて教頭のところにくる。安全協力員の希望者はたくさんである。教頭さんの仕事となる。したがって、コーディネーターのお話があったが、そんなものがあるのか、というような反応である。学校とのつながりをもっと密にしていけるべき。市教育委員会にいて、学校がコーディネーターに連絡をとるのは大変であると思う。学校とのつながりをどうしていくか、が問題である。</p> <p>「つながる」には、学校の思いをしっかりと出して、手助けしあいをしていかなければならない。</p>
議長	<p>ある部活が、全国大会で優勝したということなど、まわりは案外知らない。学校の発信力を発揮して情報を出してほしい。</p> <p>前は、インターネットを取り上げていたが、情報の発信の仕方はさまざまに進んできている。良い面も悪い面もあるが、住民に向けての情報発信に、すばやい対応を期待したいものだと思う。</p>
E 委員	<p>国と県の事業はこなしていかなければならないというのは理解できる。秋田の話があったが、子どもの学力がトップである。多分、川西と同じ条件である。やはり秋田には教育への「思い」がある。川西のメンバーもすばらしい。独自のものをつくるべきだ。時間がないという問題もあるが、ぜひ実現できれば。</p>

副議長	<p>NPO的発想。住民が主体的な組織に変わって学校と連携し住民主体していかなければならない。そうしないと継続していかない。本当の意味での支援にならない。</p>
F 委員	<p>ひとつの例として、小学校のスポーツ育成で、遠征などしたときの事故は引率した先生の責任になる。最終的には指導員、引率者の責任で、それに対しての保証がない。事故が起きたとき、何の保障もない。子どもが事故にあったときの責任は学校とは関係ない。そうするとボランティアのなり手が少ない。そうした点を整理した上で、事業の展開を考えていかなければならない。</p> <p>テレビでパンを喉につまらせて子どもが死んだというニュースがあった。子どもが早食い競争をしていたという。指導としてあらゆることを考えた上で対応しないと、個人に責任がかかってくる場合がある。</p> <p>責任の所在が未整理では、真剣に指導したいというひとは育ってこない。現実問題である。</p>
議長	<p>管理職などは、そういう思いがある。大きな視点である。それをどうしてクリアするか、なんらかの指標をつくれるのではないか。</p> <p>学校でしっかり学力をつけてほしいという声もある。学校には要望ではなく、支援、応援が必要なとき。それをいかにバックアップするかである。学校支援についても、3年間予算がつく。今後期待したい。</p>
A 委員	<p>学校は学習の場である。先生たちは現状をなんとか良いほうにすることが期待される。家庭教育が基本で、親と子を向き合わせていくかを、地域で支える体制が必要になってきて</p>

<p>議長</p> <p>事務局</p> <p>議長</p>	<p>いる。</p> <p>その他連絡は。</p> <p>第6回社会教育委員の会 日時：11月26日（水）10時～12時 場所：市役所2階 202会議室</p> <p>第7回社会教育委員の会 平成21年1月21日は第3水曜日に行う。15時半から 教育委員との懇談会を開く予定。</p> <p>これで社会教育委員の会を終了する。</p>
--------------------------------	---